

改めて考えるゼロレーティングと ネットワーク中立性

～JANOG42～

一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター
技術部 岡田 雅之



一般社団法人 日本ネットワークインフォメーションセンター

Copyright © 2018 Japan Network Information Center

ポリティカルな話題を地道に提供

いつの JANOG?	タイトル	アンケート結果 (得点順/全プログラム)
JANOG35	まだまだ続くインターネットガバナンス。ガバナンスってナンスか？	3.6(25/27)
JANOG36	インターネットの決め事の決め方	3.7(21/23)
JANOG37	トラフィック制御から考えるネットワーク中立性	4.36(7/35)
JANOG38	ゼロレーティングを支える技術とローカルレギュレーション	4.04(11/30)
JANOG39	Dynのインシデントから浮き彫りになったモノや分野をまたがるサイバー攻撃・犯罪への課	3.78(25/31)
JANOG40	落選	
JANOG41	インターネットとグローバルプラットフォーマーの程よい関係を考える	3.78(22/45)
JANOG42	Day3後半3連発	

開催概要

プログラム

アンケート

ストーリーミング

出席登録

ホスト・協賛

ニュースレター

現地情報

若者支援プログラム

JANOGの歩き方

スタッフ

English

ゼロレーティングを支える技術とローカルレギュレーション

概要

インターネットを運用するISPやキャリアでは、セキュリティや安定性のさらに上位概念として通信の秘密という憲法にも決められた守るべき規範があります。一方で、コンテンツ事業者などでは自社サービスの更なる活用を目指し、通信事業者と組み合わさり、特定のアプリケーションを優遇するいわゆるゼロレーティング問題が最近になって急速に注目されるようになりました。

ゼロレーティングは既存の特定コンテンツが優遇されやすく新規アプリケーションとの競争が除外されるといった主張で、国や地域によっては禁止されるような事態も発生しています。

ところでゼロレーティングを支える技術の一つにDPIといったパケットの中身を調べる技術が使われていることが知られています。そもそもDPIとはどういった行為を指すのでしょうか、また、このようなゼロレーティングを行うために通信の秘密に関係した行為は許容されるのでしょうか。

これまで、ネットワークの安定運用の目的として、緊急時に行われる場合には正当防衛、緊急避難については違法性が阻却され、常時行われる対策としては、目的の正当性や行為の必要性、手段の相当性を満たすものについては認められてきました。

本セッションではゼロレーティングを支える技術であるDPIとローカルレギュレーション(日本では通信の秘密)について共有し、さらにゼロレーティングを前提としたDPIや特定コンテンツへの接続性が優先されるネットワークについてオペレータはどう考慮すべきかを議論します。

発表者

石田 慶樹 (日本ネットワークイネイブラー株式会社)

幡谷 一哲 (ノキアソリューションズ&ネットワークス株式会社)

クロサカ タツヤ (株式会社 企/慶應義塾大学)

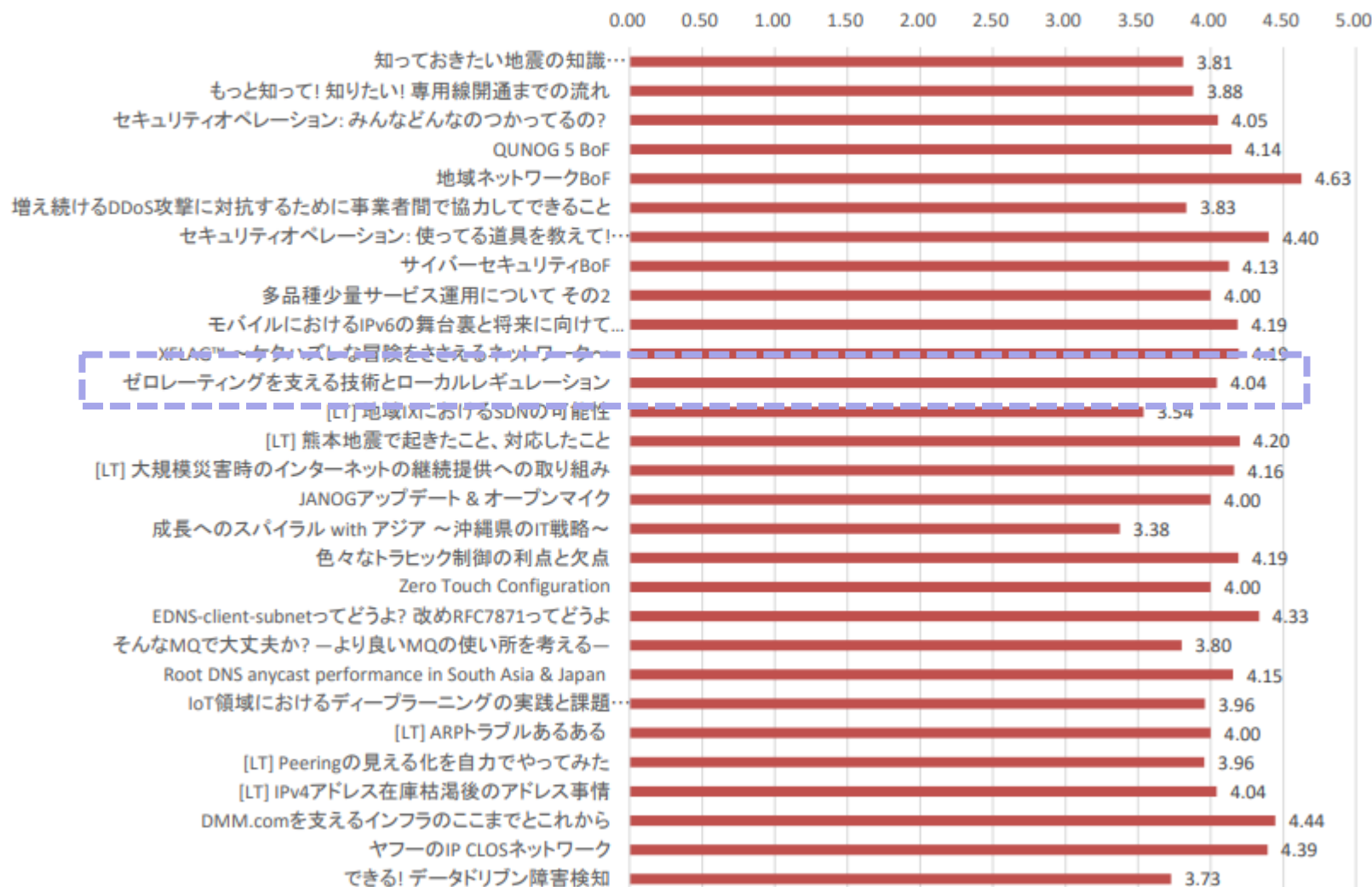
コーディネータ

岡田 雅之 (一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター)

奥谷 泉 (一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター)

JANOG38 アンケート結果

プログラム個別評価(1:悪い～5良い)



JANOG38で感じていたこと

- 技術(DPI)で釣って、
- ポリティカルな話題(ゼロレーティング) へ
- 達成できたのか？

- 質疑に出てきた人が**ベテラン**ばかり・・・
- そういったところで、
 - 今回九龍さんや黒川さんから新たな視点で話せる
- ブロッキングなどもあり、
- 今、改めてお話しする土壌ができている??

ただ、その時の質疑などの顔ぶれ

- 相当に経験をつまれた方ばかり・・・



- 今回は若手からの発案！！！！